

平成 20 年 12 月 14 日

京都大学霊長類研究所
所長 松沢哲郎 殿

日本霊長類学会
会長 山極寿一

「共同利用・共同研究拠点」への移行に関わる要望書

このたび、全国の国立大学附置研究所のあり方が見直され、従来の「全国共同利用研究所」が廃されて、新たに「共同利用・共同研究拠点」という制度が開始されると聞き及びました。

日本の霊長類学は世界でも最も古い 60 年の歴史を誇り、1957 年に世界で最初の霊長類学の国際誌を出し、いち早く霊長類の生息地全般にわたって調査を実施するなど、これまで世界の霊長類学をリードしてきました。日本は来る 2010 年に国際霊長類学会の開催国となっており、日本の霊長類学はますます重要な役割を果たしつつあると考えております。

貴研究所は 1967 年の設立以来、国内はもとより国際的な霊長類学の中核拠点として数多くの共同研究を推進してこられました。人間を含めた霊長類の基礎研究は世界の中心的研究課題であり、これを総合的に実施できる研究拠点は貴研究所を含め世界にわずかしかありません。わたくしどもは、これまでに貴研究所が果たしてきた重要な役割を高く評価しており、今後ますます貴研究所に対する世界の期待は高まっていくと考えております。ぜひこの機会に貴研究所が「共同利用・共同研究拠点」として規模を広げ、国内外の研究者との共同利用・共同研究を推進していただきたく、切にお願い申し上げます。